登山月報

2014 年 新春懇談会を開催 …… 1
第 27 回海外登山女性懇談会 …… 2
平成 25 年度関東地区山岳連盟連絡協議会総会報告 … 3
【新連載】北から南から ブロック便り …… 4
第 63 回 Mountain World …… 8
クライミング日本選手権 2014 開催 …… 6
積雪期レスキュー講習会（東部地区）を土合で実施 … 7
平成 25 年度顧問・参与会報告 …… 8
新刊図書紹介…… 8
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記 …… 9

2014年 新春懇談会を開催

恒例の新春懇談会が１月18日（土）にアルカディア市ヶ谷で開催された。当日は駐日ネパール大使・マダン・クマール・バッタライ閣下をはじめ国立登山研修所・渡邉雄二所長、日本勤労者山岳連盟・西本武志会長、斎藤義孝理事長、日本山岳会・森武昭会長、日本ネパール協会・小嶋光昭会長、日本山岳ガイド協会・磯野剛太理事長、日本アルパインガイド協会・白籏史郎会長、日本ヒマラヤ協会・山森欣一会長、日本山岳文化学会・佐々木誉実副会長、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト・田上和義理事長など大勢のご来賓、招待者を迎えて、150名の参会者となった。

はじめに國松副会長が開会を宣言し、神﨑会長が主催者を代表して挨拶を行った。「公益社団法人となって初めての新春懇談会である。責任ある団体としてわが国の登山界の先頭に立って強いリーダーシップを発揮していきます。」と力強く挨拶された。

続いてご来賓を代表してバッタライ大使、渡邉所長からご挨拶を頂戴した。

これまで行ってきた各種表彰は、式次の後にして、先ず乾杯を行い祝宴に入った。

乾杯は、石塚彰、坂口三郎、山本久子、国澤鎮雄、城隆嗣、田中文男、本木總子各顧問によって行われ、代表して石塚顧問のご発声で祝杯を上げた。

北は北海道から南は九州・宮崎まで世代を超えた方々が一堂に参集されたため、あちらこちらで懐かしい想い出話に花が咲いていた。

暫くご歓談いただいた後、中締めの前に表彰が行われた。先ず日山協や各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功労表彰が授与された。受賞者は、赤塚徹（栃木）、宇野仁章（千葉）、堀井啓介（岐阜）、山並久次（大阪）、原秀樹（熊本）の５氏。次いで指導委員会推薦の小山幹（宮城）、蛭田伸一（千葉）、開澤浩義（富山）の３氏。次にＩＦＳＣクライミング・ワールドカップ2013でワールドランキング男子１位（リード）になった安間佐千選手と同女子３位となった小田桃花選手。ボルダリング部門で女子２位となった野口啓代選手の３選手が表彰された。出席された安間、野口両選手には2014年の抱負を語って貰った。

次いで平成25年度の海外登山奨励金の授与式が行われ、アラスカへ出かけるTeam WASABI登山隊の谷口ケイさんに神﨑会長より奨励金の目録が渡された。

中締めは日本山岳ガイド協会の磯野剛太理事長にして頂き、最後に八木原副会長より閉会宣言があり、お開きとなった。　（記　尾形好雄）

功労表彰の方々

会長挨拶

― 女性たちの海外登山への夢 ―

第27回海外登山女性懇談会

昨年12月３日に第27回「海外登山女性懇談会」を、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催した。広報活動が十分とはいえない中、予約していた会議室には、予想を上回る参加者が来場。立ち見も出る盛況ぶりだった。

今回のテーマは「日本の山から海外の山へ――女性たちの海外遠征・第一歩」。海外登山を考えはじめた女性たちに焦点をあてた企画だったが、参加者には20～30代の若い女性が目立ち、ねらい通り、熱気の籠もった懇談会となった。

懇談会は二部制で、前半は３名の山行報告かねた発表。後半は会場の参加者も交えた懇談会形式とした。

今回の発表者のうち２名、上村エミさんと私、鈴木百合子は、2013年に自ら企画した海外山行を初めて経験したばかり。いうなれば、今回のテーマ、海外登山の第一歩を踏み出したところである。

一方、もうひとりの発表者・恩田真砂美さんは、大学卒業後、会社員となったあとも、積極的に海外登山にトライしてきた経歴の持ち主。海外へと向かわせる動機や、そこから拡がる可能性、そして持続させる原動力や、その難しさについて十分に考え、経験する時間を経てきた。チョーオユー、マッシャーブルムⅡ峰、コスクラック峰など沢山の高峰をはじめ、北極圏犬ぞり旅、アジア自転車旅などの水平の旅の経験もある。

発表は、上村さん、鈴木、ふたりの新鮮な体験を受けるかたちで、恩田さんが、さらにそこから生まれる出会いや地域的な視野の拡がり、深まる喜びについて、ご自身の山行を語りながら、イメージを拡げてくれたように思う。

上村さんは「氷の道・チャダル――ザンスカール川の旅」と題し、厳冬期のインド・ザンスカール川にできる氷の道・チャダルを、地元民の親子と歩いた。チャダルは、山の民が羊毛や乳製品などを街へ売りに出る冬の交易路として利用されてきた。道路が整備された現在では、とくにこの氷の道を利用する必要はないのだが、いまでも伝統を守る気持ちが、氷の道を歩かせるという。

私は「極北にみた人の営み――Mt.マッキンリー」というテーマで山仲間２人と登頂したマッキンリー山行について語った。国立公園の徹底した入山管理システムや、レンジャーの活動に、日本にはない山岳活動への取り組みを見た。

印象的だったのは、ふたりとも旅そのものの経験と魅力に意味を見いだしたほかに、旅を通じてその背後で出会ったものに心を惹かれていたことである。たとえば上村エミさんは、日本の準備段階での様々な人との出会いがチャダルへと導いてくれたこと、そのことが大切と語る。行った経験があると聞けば、必ずその人に会いに行ったという。一方私は、マッキンリーをめぐる人々に思いが向かった。とくに冒険家・植村直己さんや登山家・山田昇さん達たちの遭難捜索記録は詳細まで読んだ。またマッキンリー周辺の山岳で活躍するセスナ機のブッシュパイロットの記録も読んだ。そうしなければ自分の旅が完結しないような印象をもったのだった。

そんな話を会場の参加者はじつに熱心に聞き入ってくれたと思う。この会のため、事前に海外登山についてのアンケートも実施してみたが、「女性隊などの企画があれば、参加してみたいですか？」との問に、「できれば参加してみたい」という回答が多く寄せられた。

登山に興味をもつ若い女性層には、海外登山への夢や希望があることは確かなのではないだろうか。参加者の中には、参加した理由として、登山経験があるわけではないが、自分が探しているものがあるような気がして、と発言する人もいた。

女性層が薄いといわれる日本の登山界だが、登山へのいざないやきっかけづくりがうまく行われれば、もっと沢山の女性登山家が誕生し、またユニークな活動も生まれてくるのではないか。そういう期待を強く感じさせてくれる懇談会となった。

（記　国際委員会　鈴木百合子）

平成25年度関東地区山岳連盟連絡協議会総会報告

関東地区山岳連盟８団体による関東地区山岳連盟連絡協議会総会が神奈川県山岳連盟の主管により２月１日～２日にかけて神奈川県立藤野芸術の家で開催された。各県参加県岳連は交通の不便さもあったが12時ごろから各県岳連の到着があり定刻14時を待たず13時30分より総会が行われた

総会開催に当たり神奈川県山岳連盟事務局長松隈より式次第の説明がなされ神奈川県山岳連盟会長大曽根弘より現在の山岳環境の変化、各山岳会の会員減少、これからの山の多様化を見据えた各県岳連の対応等の挨拶があり議題に移った。

25年度活動報告として神奈川県山岳連盟理事長菊池より25年度の関東ブロック大会に至る神奈川県と県岳連の対応経緯等の説明、関東ブロック成績結果の配布を行った。次いで東京都山岳連盟より25年度本国体の状況、結果の説明があった。３番目に群馬県主管で開催された第15回関東地区スポーツクライミング競技会、今回はボルダリングでの競技会の報告がなされ。引き続き26年度幹事県である栃木県山岳連盟への関東地区山岳連盟会長印引き継ぎを無事終える。

26年度活動計画について26年度国体関東ブロック山岳競技会主管県の栃木県山岳連盟により次回開催69回国民体育大会関東ブロック大会山岳競技実施計画、平成26年７月26日（土）・27日（日）開催の説明がなされ引き続き、山岳競技各競技スタート順を決める作業くじ引きを行い各６競技のスタート順が下記の通り決定した。

次に26年度関東地区スポーツクライミング競技会幹事県の千葉県山岳連盟より26年度のスポーツクライミングの在り方、競技会ネーミングについて提案がなされた。25年度までの競技会参加者はほとんどがジュニア選手で構成されている現実と過去の参加データーを提示され各県岳連で議論を重ね各県岳連８県会長・理事長出席の今議場での競技会ネーミングの変更を採決した。採択された下記ネーミングは26年度大会より使用される

「平成26年度第１回関東小中学生選抜クライミング選手権大会」

次に日本山岳協会各委員より現在の変りつつある日山協の現実そしてトレイルランの考え方、今後の関わり方またトレイルランのアンケート等日山協からの連絡事項が報告され、定刻を少し過ぎて閉会となる。

18時より今回のメインイベント？　夕食懇親会が行われ美酒、肴でほろ酔いちょい悪親父達に二胡の独奏、山の歌をメインに遠藤芳晴氏による弾き語り最後には各県二胡の伴奏による山の歌で大いに盛り上がり、おひねりまで飛び出し大盛況でお開きとなった。

宿泊参加者	30名
日帰り参加者	４名
設営ボランティア	10名
参加者・ボランティアスッタッフ合計	44名

（記　神奈川県山岳連盟理事長　菊池　稔）

第69回国民体育大会関東ブロック大会山岳競技スタート順

競技順	少年少女		少年男子		成年女子	
	リード	ボルダ	リード	ボルダ	リード	ボルダ
1	群　馬	神奈川	栃　木	茨　城	栃　木	埼　玉
2	栃　木	千　葉	東　京	東　京	千　葉	山　梨
3	埼　玉	東　京	茨　城	栃　木	東　京	神奈川
4	神奈川	栃　木	千　葉	千　葉	茨　城	東　京
5	山　梨	茨　城	山　梨	埼　玉	群　馬	千　葉
6	東　京	群　馬	埼　玉	山　梨	山　梨	栃　木
7	千　葉	埼　玉	神奈川	群　馬	埼　玉	群　馬
8	茨　城	山　梨	群　馬	神奈川	神奈川	茨　城

新連載

北から南から ブロック便り
北信越ブロック

北信越５県では、毎年春と秋の２回、情報交換と共通する課題への取り組みを協議検討する連絡協議会を開催している。春は間近に迫った北信越国体の会場視察と準備状況の確認が主たる議題であるが、秋口は懇親も含め腰を据えて議論をしている。本年は長野県が当番県となって、12月７日（土）８日（日）の両日、長野市の奥座敷、神話と伝説の里・戸隠で会を開催した。せっかく集まるのだからと会に先立って、希望者による戸隠神社奥社への参拝を計画したところ、全員が参加、雪の参道の散策を楽しんだ。会議では議論白熱、夜は自慢の酒を持ち寄っての大懇親会と深更まで山談義に花が咲いた。

会議は北信越ブロック選出の日山協・永山理事（富山）の報告から始まった。日山協の公益化で48番目の団体として高体連が加盟することなどが報告されたほか、登山月報広報専任委員の選出がなされ、毎年この会議を主宰する当番県が担当することで結論を見た。国体に関わっては、日山協森国体委員（新潟）から、ドーピングや予選段階からの選手登録など、より一層の競技化の方向性が示された。

続いて具体的な議論が行われ、最初に「各県の岳連・協会と高体連登山専門部との関わりについて」、長野大西が全国高体連登山専門部副部長の立場から提案をした。高体連の主催する大会はインターハイと選抜大会であるが、従来選手登録の不要であったインターハイにも来年度から選手登録が参加要件となることについての経緯が説明され、そのことも踏まえながら次世代育成という観点から、各県岳連・協会としても高体連とより緊密な関係を持っていくことを考えてほしい。これは、日山協として48番目の加盟団体として高体連を迎える日山協の方向性とも一致することであり、今後の山岳界の活性化にも一役買うはずであると理解を求めた。

戸隠神社奥社への参拝

ついで取り上げたのは「山岳会の活性化」という、どの県においても喫緊かつ深刻な話題である。単一の会の力量がかつてほど無くなってきている現状において、地区あるいは全県規模の事業を企画することで、山岳会の力量低下をカバーしていく取り組みがそれぞれの県ごとにいくつか紹介された。そうは言ってもやはり基本は、各山岳会が現状の力でできることを考え努力することが重要なことは論を待たない。新潟県山協・阿部会長からは、自らの所属会が「ジャンルを問わない活動、山で学びたいというニーズを大事にした活動、HPの積極活用、そのためのHPの更新、ポスター掲示」などという地道な活動の積み重ねで会が活性化しているという報告は、参加者に元気を与えてくれた。また、市民登山の実施など一般の方々への働きかけも活性化の一助となるという指摘もあった。

一方で、現在山岳遭難事故の問題が全国的な問題としてクローズアップされており、未組織登山者への働きかけが一つの課題となっている。長野では本年度から「個人会員制度」を導入することにした。全国ではすでに後発県ではあるが、北アルプスをはじめ多くの有名山岳を抱えた北信越各県においては、個人会員の遭難事故対応がその導入に当たっての大きなネックでもあった。一定の線引きをした上で導入を図った長野のケースを参考に、前向きに検討したいというのが各県の意向だった。

北信越ブロックでは、これまで日山協の山岳スキー競技会にブロックとして協力してきた。手探りで進めてきたこの大会も、2014年度は９回目を迎える。今年も４月第１週には栂池で開催されるべく準備が進んでいる。新潟から福井までの極めて長い距離に及ぶ5県からなる北信越だが、この大会やブロック国体を通じての協力体制は揺るぎない。今後も手を携えながら、地域の山岳活動、文化活動に貢献していきたい。

（北信越広報委員　大西　浩／長野県山岳協会理事長）

第63回 Mountain World

北米最高のヒマラヤン・クライマー

池田常道

アメリカを代表するヒマラヤン・クライマーというと、ちょっと選択に迷うところがある。ヨーロッパならいくらでも名前が浮かんでくるのに、大西洋をへだてた新大陸では、K2に2回挑んだチャールズ・ハウストンとか、エヴェレスト西稜を成功させたノーマン・ディレンファースとか、どちらかと言えばオーガナイザーとして名を馳せた人物が多い。そんななかで、70年代から80年代にかけて、登攀実績の上でもヨーロッパの列強に伍して活躍したのが、ジョン・ロスケリーだ。昨年65歳になった彼は1973年、ダウラギリ第3登でヒマラヤにデビューし、6000m級のテクニカル登攀から8000m峰の無酸素登頂まで幅広く実績をあげた。

その彼が、このほどピオレドールの「生涯功労賞」を受賞することが決まった。第1回のヴァルテル・ボナッティ（イタリア）に始まったこの表彰は、ラインホルト・メスナー（イタリア）、ダグ・スコット（イギリス）、ロベール・パラゴ（フランス）、クルト・ディームベルガー（オーストリア）と続いてきた。北米大陸からは、もちろん初めての受賞である。

ロスケリーといえば、『岩と雪』80号～85号に「わがヒマラヤ・クライミング」と題して半生記を執筆してもらったことを思い出す。時代の先端を行くクライマーによる連載は、ヴァルター・セキネル「氷壁の履歴書」（44号～53号）、ダグ・スコット「ハードクライム」（54号～60号）に次ぐ第3弾だった。1984年4月から1年間にわたったこの連載で、米国北西部のクライマーがいかにして一流のヒマラヤ登攀をこなすようになったか、彼は子細に語ってくれた。

ワシントン州スポカーン出身のロスケリーは、1973年春にダウラギリⅠ峰（8167m）に登ってヒマラヤデビューを果たした。69年に雪崩で7名を失った大遭難の雪辱戦は、悪名高い東氷河から南東稜の稜線に抜けたが、頂上へは北東コル経由で登った。南東稜が登られたのはそれから5年後、群馬県岳連隊によってである。

76年秋にはナンダ・デヴィ（7816m）北西壁を初登攀したが、隊長の娘ナンダ・デヴィ・アンソールドを失った。ロスケリーとルイス・ライカート、ジム・ステーツの強力トリオが登頂したあと、彼らの固定ロープを使って第2次攻撃を試み、最終キャンプで力尽きたのだった。78年にはK2（8611m）北東稜に挑み、無酸素で頂上に達した。メスナーのそれに先立つこと1年、同峰の無酸素初登頂だった。

しかし、こういった成功にもかかわらず、大遠征での彼はどこか居心地が悪そうだった。83年の来日時にそのことを尋ねると「（アメリカのヒマラヤ遠征は）金集めのうまい人間が中心に座ることが多く、隊員もハイカーやバックパッカーまで集めるからチームとしての統一がとりにくい」と語っている。そんなことがAAC退会にもつがっていった。

これとは逆に、気心が知れ、実力もそろった友人たちと編成したチームでは大いなる実りがあった。77年のグレート・トランゴ（6286m）、79年のガウリシャンカール（7134m）、ウリビアホ・タワー（6083m）の各初登頂や80年のマカルー（8463m）西稜第2登（無酸素）、82年のチョラツェ（6440m）初登頂などだ。行を共にしたメンバーは、ゲイラン・ラウエル、ロン・カウク、ビル・フォレスト、キム・シュミッツ、クリス・カプチンスキーら錚々たる面々だった。

もちろん。ロスケリーにも人並みに世界最高峰への思いがなかったわけではない。81年の東壁試登では、危険が明白なルートに固定ロープを伸ばす作戦に反対して離脱した。83年春にはチベット側から西稜をうかがうが、7925mまでルートを伸ばした翌日肺水腫に倒れ、助け降ろされる羽目に陥った。因縁の東壁が登られたのは、その年秋のことだった。

その後、1989年冬にはジェフ・ロウとタウツェ（6501m）北東壁を初登攀、95年にはフエゴ島のサルミエント西峰に新ルートを拓いて健在ぶりを示した。

著書には以下の3冊がある。『Last Days(1991)』、『Stories off the Wall(1998)』、『Nanda Devi:The Tragic Expedition(2000)』。

1983年1月に来日したロスケリー

クライミング日本選手権2014開催「マムートカップ」

男子は松島暁人選手が３連覇

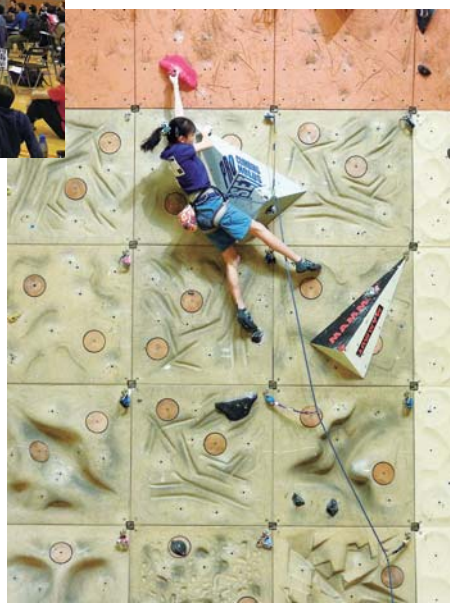
１月４日（土）～５日（日）、クライミング日本選手権「マムートカップ」が、東久留米スポーツセンターで開催された。

女子は予想通り、小林由佳、尾上彩、田嶋あいか、という世代の違う３強の争いとなった。準決勝ではまさにその３者が完登。決勝でも最上部の核心に達したのはその３名のみ。田嶋が小林、尾上の一手先を行き、金メダルを手にした。

男子は、本命松島暁人vs若手軍団という様相となった。準決勝では松島と“新高校生トリオ”、楢崎智亜、島谷尚季、是永敬一郎の４名が完登。決勝でも松島は格の違いを見せ、終了点直下にせまり優勝。新田龍海、杉本怜が続き、“新高校生トリオ”を４位以下に退けた。

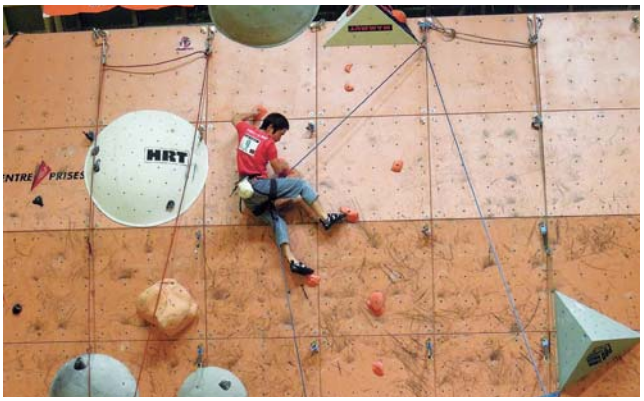
パラクライミングの視覚障害部門では、もはや定番となった、超ベテラン小林幸一郎と高校生・会田祥の争いが繰り広げられた。予選を完登したのはやはりこの２名のみ。決勝では小林が上部で抜群の読み（事前に口頭でホールドの位置を示すナレーションを聞いている。）を発揮、会田に３手差をつけ優勝した。同時に行われた肢体不自由（片足）部門は参加２名で、大槻智志（宮城）、が中埜雅富（福岡）を征した。

（記　北山　真）



田嶋あいか選手

男子		女子		視覚障害Ｂ１		視覚障害Ｂ２		肢体不自由（片足）	
1位	松島　暁人	1位	田嶋あいか	1位	川井　雄人	1位	小林幸一郎	1位	大槻　智志
2位	新田　龍海	2位	小林　由佳	2位	岩本　謙司	2位	会田　　祥	2位	中埜　雅富
3位	杉本　　怜	3位	尾上　　彩	3位	前岡　正人	3位	長橋　孝明		
4位	楢崎　智亜	4位	義村　　萌						
5位	島谷　尚季	5位	野中　生萌	**視覚障害Ｂ３**		**視覚障害女子**		**パラクライミング総合**	
6位	是永敬一郎	6位	竹内　彩佳	1位	蓑和田一洋	1位	前岡　ミカ	1位	小林幸一郎
7位	中野　　稔	7位	三浦絵里菜	2位	中越　祐太	2位	青木　宏美	2位	会田　　祥
8位	藤井　　快	8位	松島　由希					3位	蓑和田一洋



小林幸一郎選手

松島暁人選手

積雪期レスキュー講習会（東部地区）を土合で実施

平成25年度積雪期レスキュー講習会が１月24日（金）～26日（日）に土合山の家周辺で行われた。この講習会はtotoの助成を受け開催されたものでクラス１、クラス２、クラス３の３コースの講習を行い、51名が受講した。今年も若い受講者や女性が多く、活気のある講習会となった。

今年からクラス１は日本雪崩ネットワークのセーフティーキャンプのカリキュラムに従い、雪崩についての学習と対応を中心にＪＡＮの出川講師、寺田講師と服巻常任委員が講師を務め、17名の応募から幸運な８名が受講した。このクラスは遭難対策の中でも事故予防を主眼としたもので、雪や雪崩、地形のリスク、グループマネジメントを映像や現地でマンツーマンに近い形でみっちりと学んだ。

クラス２は25名で２班に分かれ、石田常任委員が主任講師を務めた。このクラスは雪崩についての講習のほかにビーコンによる捜索、プローブによるピンポイントの探索、シャベルによる掘出しを学び搬送を含む雪崩事故発生のシミュレーションも行った。受講者が多く、レベルのバラツキが大きいので、どうしても積極的に行動するものと、見学にまわるものがでてしまい今後の課題となった。

クラス３は町田常任委員が主任講師を務め、クラス２の内容にさらにロープを使った搬出のため雪上の支点の取り方やロープワークを学んだ。受講者は16名であったが、講習内容を事前に室内で十分討議してからフィールドに出る方式でムダのない講習が行われていた。

雪はちょうど良い量でこの時期の谷川岳としては明瞭な弱層があり、雪質の観察にも真剣に取り組んでいた。土合山の家の食事がおいしく、情報交換会はつまみがささやかとなったが、いつまでも熱い議論が続いた。今回の講習では初心者が多く、装備を持たないものがいままでで一番多かった。今後は主催者側で貸出機器を調達しておく必要がある。

プローブ捜索トレーニング

ロープでの引き上げ搬送

また、遭難対策には事前予防と事後対策があり、事前予防は登山者教育の中に組み込む必要があるが、明確な教程がないのが現状である。山岳会に入り、先輩からじっくり教えられていることが前提の時代はそれで良かったかも知れないが、初心者に直接指導する必要がある現在では、クラス１で行ったようなフィールドでの登山者のための事前予防の教程を確立する必要を痛感した講習であった。

（遭難対策委員長　西内　博）

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ケ岳山荘　TEL:090-2252-3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　TEL:042-787-2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL:042-687-2882

理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長　杉本憲昭

第９回山岳スキー競技日本選手権大会　参加選手募集！

４月５日（土）、６日（日）の両日で、長野県小谷村の栂池高原から天狗原にかけての斜面を使用して、第９回山岳スキー競技日本選手権大会が開催されます。この競技は山スキーを使って登り下りのあるコースを周回してくるタイムレースで、スキーを使った冬の山岳耐久レースとも呼べるものです。およそ水平距離12km、総標高差1300m程度のコースを山スキーで登り、滑走します。国際規格部門の他に、ショートコース部門やテレマーク部門もありますので、初めての方でも気軽に挑戦していただけます。今大会は来年の世界選手権日本代表選考も兼ねています。ぜひ皆さまのご参加をお待ちしております。

詳しくは日本山岳協会 http://www.jma-sangaku.or.jp/　または日本山岳スキー競技協会 http://www.jsmc.jp/

平成25年度顧問・参与会報告

2014年新春懇親会に合わせて１月18日に東京・アルカディア市ヶ谷で顧問・参与会が開催された。日山協からは石塚・坂口・山本・城・田中各顧問、神﨑会長、八木原・國松・佐藤副会長、内藤・岡本監事ら12名の顧問・役員が出席し、参与は全国から18名が参加された。

神﨑会長挨拶の後、出席者に自己紹介を含め現況報告をして頂いた。日常の活動状況や健康に関することなどが報告されたが、皆さん元気に活動されておられるのには驚かされる。

次いで、尾形専務理事より、公益社団法人へ移行した新生日山協の概況、４つのワーキング・グループによる喫緊の課題検討、組織・役員体制、財政状況、事業概況、山岳共済会事業などの現況を報告した。

参与からの質疑応答では、「山の日」制定についての日山協の関わり、高体連登山専門部との連携強化、高校山岳部の指導者研修、中高年登山者への安全対策指導、参与の減少と組織の弱体化懸念、日本山岳会の支部と岳連の関わりなどについてご意見を頂いた。

（記　尾形好雄）

みんな集まれ！
なすかし雪遊び隊 2014

小学生の雪遊びイベントを１泊２日で開催します。

期　日　平成26年３月26日（水）～27日（木）
場　所　国立那須甲子青少年自然の家
内　容　かまくら作り，スノーシュー体験，そり遊び，動物の足跡さがし，雪上ゲーム，お楽しみ会など
募　集　小学１年生～４年生 20名（先着順）
参加費　１人3,500円（保険料，宿泊食事１泊４食）
申込み　日山協事務局　電話：03-3481-2396
FAX：03-3481-2395

新刊図書紹介

『定本　日本の秘境』

岡田喜秋　著

1960年に単行本として刊行され、秘境ブームを巻き起こした、紀行文の傑作が、ヤマケイ文庫として刊行された。

戦後の復興を遂げ、都市部では好景気に沸き立つころ、雑誌『旅』（日本交通公社・当時）の名編集長として知られた岡田喜秋（本年米寿、88歳）が、日本各地の山・谷・湯・岬・海・湖などを歩いた旅の記憶をまとめた18篇を収録。紀行文の名手が紡ぎだす文章は、ときに鋭く、ときにやさしく旅の風景を抽出していく。高度経済成長の陰で失われていった日本の風景を描写した、昭和30年代の旅の記録として貴重なものだ。

初刊行後、２度、文庫化単行本化された不朽の名作が、半世紀以上を経たいま、「定本」としてヤマケイ文庫に収録された。

文庫版、384頁、定価950円＋税、山と渓谷社刊

ダウラギリⅠ峰一周 トレッキング 21日間

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡
出発日 4/22（火）　旅行代金 ¥584,000
※燃油サーチャージ（2014年1月20日現在：目安約38,000円）が別途必要です。
5,000m以上の峠を2つ越える非常にハードなトレッキングです。
参加条件等がございますので、詳細はお問い合わせください。
旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパイン ツアーサービス 株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033　名古屋 ☎052-581-3211　福岡 ☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

平成26年度１月（26年１月）常務理事会報告

日　時　平成26年１月９日㈭
17：50～20：35
場　所　岸記念体育会館103会議室
出席者　神﨑会長、八木原・國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京オ、瀧本、青木各常務理事、中畠監事
委　任：水島常務理事
（13名中12名出席）

１．専門委員会動静
12月常務理事会以降
（12月12日～１月８日）
［報　告］
⑴自然保護委員会
12月17日㈫　出席者10名
ア　11月常任委員会議事録の確認
イ　関東地区自然保護連絡会報告
・11/22～23、神奈川県清川村、参加者27名
ウ　山岳７団体自然環境連絡会報告
・12/4、労山事務局、石倉、松隈、徳永
エ　自然保護指導員登録
・新規：１名（広島）
オ　平成26年度事業計画及び予算案
カ　自然保護指導員の手引きの改訂
キ　自然保護指導員研修会について
・1/18㈯、国立オリンピック記念青少年総合センター
ク　「山の神の会」（仮称）の開催について
ケ　神奈川県丹沢大山自然再生活動発表会（2/2）について
コ　神奈川岳連「山の自然セミナー」（2/22～23）について
⑵ジュニア普及委員会
12月17日㈫　出席者３名
ア　ジュニア普及情報交換会について
・2/15、国立オリンピック記念青少年総合センター
イ　「なすかし雪遊び隊」について
・下見の日程と要項手配
ウ　平成26年度予算（案）について
⑶遭難対策委員会
12月18日㈬　出席者６名
ア　積雪期レスキュー講習会の準備・分担について
・クラス２の応募が多いため、講師配置の見直し、参加者確定と役割分担
イ　ロープ・フォーラム開催について
・2/22㈯13時～、日本青年館
ウ　平成26年度日中韓合同技術交流研修会について
・組織、予算、開催までのタイムスケジュール
・無雪期レスキュー講習会の日程調整（9/26～28）
エ　雪崩防止の山岳雑誌への意見広告掲載について
・岳人、山と渓谷、PEAKSの２月号に掲載
オ　位置探査機ヒトココのJAN評価及びテレビ放映について
・JANの評価コメント
・12/23、テレビ東京で放映予定
カ　雪崩アンケートのまとめについて
・アンケート集約は、７県92通のみ
キ　平成26年度事業及び予算について
⑷競技部合同委員会
12月19日㈭　出席者10名
ア　平成26年度事業計画及び予算
イ　都道府県大会からの選手登録
ウ　国体リード競技に関する変更の検討
エ　審判昇級希望申請について
オ　第４回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の準備について
カ　クライミング日本選手権「マムートカップ」の準備について
キ　第９回ボルダリング・ジャパンカップの準備について
ク　クライミング・ユース日本選手権の準備について
ケ　IFSCクライミング・ワールドカップ2014印西大会について
コ　競技部ブロック別研修会の派遣講師について
サ　12月常務理事会・連絡部会報告
シ　国体正規視察報告（茨城、福井、和歌山）
ス　ブロック別研修会報告（東北、四国）
セ　クライミング大会のメダルについて
ソ　表彰候補者の推薦について
・優秀選手表彰：安間佐千、小田桃花、野口啓代
・ミズノメントール賞：北山真
⑸パラクライミング小委員会
１月３日㈮　出席者５名
ア　小委員会の方向性について
・パラリンピックへのアプローチ
・障害者スポーツ大会へのアプローチ
・パラクライミングの競技及び普及振興（社会貢献活動）活動
・和歌山の障害者スポーツ大会参加（デモ競技）に向けてのアプローチ
・アジアパラクライミング選手権開催に向けてのアプローチ

寄贈図書

寄贈本	山と渓谷社	「日本の秘境」岡田喜秋 著
	ゲットナビ編集部	「人生を変える大人趣味50」
雑誌	山と渓谷社	「山と渓谷」No.946 2014.2
	東京新聞	「岳人」No.800 2014.2
会報	（公財）京都府体育協会	「京都府体協時報」No.114
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第559号
	（公社）日本フィットネス協会	「健康づくり」2014 1月 No.429
	福岡山の会	「せふり」26年1月 No.360
	横浜山岳会	「山」979号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.649
	（一財）日本万歩クラブ	「帰れ自然へ アルク」2014 2.3
	大阪府山岳連盟	「山岳　おおさか」No.199号
	日本トレーニング指導者協会	「JATI ＥＸＰＲＥＳＳ」vol38
	東京都高校総体実行委員会	「総体ニュース」vol3
	中華民国山岳協会	「中華山岳」238
	FEEC	「Vertex」251 Nov-Des2013
	山のECHO	「山のECHO通信」No.34
	三重県山岳連盟	「三重県山岳連盟会報」No.41
	大阪府体育会館	「季刊 府立体育会館」No.107号
	（公社）日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.291
	（公財）全日本ボウリング協会	「JBC news」第506号
	（公財）日本体育協会	「Sports Japan」Vol.11 2014 01-02
	中国登山協会	「山野　中国戸外」184期 2013.12
	Corean Alpine Club	「山」Vol.234 2014.1-2
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.468 2014.2
	（公財）国土緑化推進機構	「ぐりーん・もあ」第64号
	（独）国立スポーツ科学センター	「Japnese Journal of Elite Sports Support vol.6」
	中国登山協会	「山野 中国戸外」185期 2014.1
	（公社）日本山岳会	「山」No.824 2014年1月号
	Korean Alpine Federation	「大山聯」2014 January Vol.181
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.91 No.1007
	（株）スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」第213号1・2月合併号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第407号
	信州大学山岳科学総合研究所	「山岳科学総合研究所ニュースレター」第39号
	（公社）日本パワーリフティング協会	「ＪＰＡ時報」第59号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.650

⑹指導委員会
　1月6日㈪　出席者8名
ア　12月指導委員会議事録確認
イ　12月常務理事会・連絡部会報告
ウ　ハイキングリーダー制度検討会（12/16）報告
・今年度中に印刷・製本を図る
エ　指導常任委員検討会（12/7～8）報告
オ　スポーツ指導者連絡会議（12/13）報告
カ　指導員認定申請
①ＳＣ指導員
・畑野和宏、堀壮一、一安敏文、真下誠二、春木元太、岩井貴志、小杉生奈子、唐沢拓也、松井啓吾、阪中啓司、以上、北海道10人
・高橋麻那実、徳永信文、横川太一、清水哲、一宮紀彦、中野稔、黒木浩紀、福島康展、上原一輝、大石剛志、久保田有美、以上、福岡（中央開催）11名
キ　ＳＣ指導員養成講習会テキストについて
ク　平成26年度事業計画・予算案について
ケ　指導常任委員研修会について
・2/1～2、谷川岳、参加者6名
コ　氷雪技術研修会（2/15～16、大山）について
サ　氷雪技術研修会（富士山）について
シ　大阪府岳連からの報告と問い合わせについて
・指導員資格の受講要件及び指導員の適格性については、次回再検討する。

2．その他の重要事項

（12月12日～1月8日）
［報　告］
⑴アジア・ユース選手権
　12月11日㈬～15日㈰　於：インドネシア・スラバヤ　小日向団長、安井コーチ、選手14名
⑵平成25年度全国スポーツ指導者連絡会議　12月13日㈮　於：渋谷・シダックスホール　瀧本常務理事
⑶25年度海外登山奨励金交付隊選考委員会　12月13日㈮　於：岸記念体育会館　八木原副会長、尾形専務理事、澤田委員長、池田・川瀬委員
⑷平成25年度公認スポーツ指導者全国研修会　12月14日㈯
　於：TKPガーデンシティ品川ボールルーム　切嶋常任委員
⑸日本ヒマラヤ協会華甲望年会
　12月14日㈯　於：プラザエフ　八木原副会長
⑹第70回和歌山国体（平成27年）正規視察　12月14日㈯　於：和歌山県みなべ町　西原常任委員
⑺第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会　12月22日㈰～23日㈷　於：加須市民体育館　神﨑会長、八木原副会長、尾形専務理事、森下・青木常務理事、高山、山本、北山各委員長
⑻渋谷税務署へ消費税課税事業者届出を提出　12月24日㈫
⑼スポーツクライミングユース強化合宿　1月3日㈮～14日㈫　於：ドイツ・ミュンヘン　小日向選手強化副委員長ほか16名
⑽2014クライミング日本選手権
　1月4日㈯～5日㈰　於：東久留米スポーツセンター　神﨑会長、森下常務理事、高山、山本、北山各委員長
⑾国立登山研修所専門調査委員会
　1月9日㈭　於：国立競技場会議室　尾形専務理事、北村・増山理事

3．議　事

⑴平成25年度12月常務理事会議事録の承認について（1部誤字訂正で承認）
⑵2013年ミズノスポーツメントール賞候補者の推薦について（北山真氏の推薦を承認）
⑶報告事項
ア　会計月次
イ　平成25年度海外登山奨励金交付登山隊について
ウ　（公社）日本山岳協会海外登山奨励金規程について
エ　被表彰候補者について
オ　2014年新春懇談会及び顧問・参与会について
カ　なすかし雪遊び隊2014開催要項について
キ　茨城国体正規視察報告について
ク　公認クライミング競技審判員の昇級手続きについて
ケ　ロープ及びその結束の力学特性に関するフォーラムについて
コ　平成26年度の予算編成について
サ　選手登録システムについて

4．役員等の派遣について

⑴アマチュアスポーツ新春懇談会
　1月15日㈬　於：ＮＨＫ本館　神﨑会長、尾形専務理事
⑵第63回日本スポーツ賞表彰式
　1月17日㈮　於：ホテルオークラ東京　神﨑会長、尾形専務理事
⑶大阪府山岳連盟新春交歓会
　1月19日㈰　於：ホテル阪急インターナショナル　國松副会長
⑷レスキュー講習会（積雪期）
　1月24日㈮～26日㈰　於：土合・谷川岳　西内常務理事
⑸東京都山岳連盟新春の集い
　1月25日㈯　於：東京グランドホテル　神﨑会長
⑹ＷＣ印西大会2014実行委員会
　1月29日㈬　於：松山下公園総合体育館　森下常務理事、高山、山本、北山各委員長
⑺日本山岳写真協会新年会
　2月2日㈰　於：ルートイン東京・東陽町　八木原副会長
⑻「なすかし雪遊び隊2014」下見打ち合わせ　2月9日㈰　於：国立那須甲子少年自然の家　本木顧問、西内、仙石、青木常務理事
⑼ジュニア普及情報交換会
　2月15日㈯　於：国立オリンピック記念青少年総合センター　神﨑会長、本木顧問、八木原副会長、西内、仙石、青木常務理事

5．後援、協賛等の依頼について

「第14回全日本山岳スキー競技大会兼第34回秋田県山岳スキー競技大会」の後援名義（秋田岳連）（承認）

6．報　告

⑴指導員の認定承認
①ＳＣ指導員
・畑野和宏、堀壮一、一安敏文、真下誠二、春木元太、岩井貴志、小杉生奈子、唐沢拓也、松井啓吾、阪中啓司、以上、北海道開催10人
・高橋麻那実、徳永信文、横川太一、清水哲、一宮紀彦、中野稔、黒木浩紀、福島康展、上原一輝、大石剛志、久保田有美、以上、福岡（中央開催）11名

（以上、承認）

編集後記

2014年冬季オリンピックがロシアのソチで始まった。時差5時間ＴＶ観戦での応援となるが、日本選手の活躍に期待したい。海外交流と言えばＪＭＡでは今年大きなイベント三つ予定している。日中韓登山技術交流研修会が9月4日～10日群馬県・谷川岳周辺、ＩＦＳＣワールドカップ印西大会2014が千葉県印西市・森山下公園総合体育館、アジア山岳連盟（ＵＡＡＡ）総会が広島で開催される。忙しい秋季が予想されるが応援と協力を。　（広報担当　水島彰治）

登山月報　第539号
定　価　100円（送料別）
予約年間　1,200円（送料共）
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月1回15日発行）
発行日　平成26年2月15日
発行者　東京都渋谷区神南1−1−1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03 − 3481 − 2396
ＦＡＸ　03 − 3481 − 2395

写真提供：長野県警察

安全な登山を
Safety Mountaineering

ビーコンをしていないと…
プローブラインによる捜索では、捜索員20人を用いても100m×100mの範囲の粗い捜索をするのに4時間、3点プローブでは20時間も掛かる調査報告があります。2013年は日本製のビーコンが発売になってから20年目にあたります。写真は、ビーコン非装着の登山者を探す長野県警の隊員。

雪崩死亡事故を考える

本格的な冬山シーズンを迎え、いろいろな山行計画を立てている方も多いと思います。
冬季山岳の危険である雪崩を、皆さまにお考えいただくヒントとして雪崩死亡事故のデータを整理しました。

年平均5件9人 8割がレクリエーション

過去23年間で124件の雪崩死亡事故が発生し、201人が亡くなっています。年平均5件の死亡事故が起こり、9人が亡くなることになります。死者数の増減は、そのシーズンの特徴に依存しており、著しい暖冬少雪の年に死者数が大きく減少する以外、明快な傾向はありません。最大の死者数19人を出した2006シーズンは「平成18年豪雪」の年です。しかし、その豪雪で死者が増えたのではなく、寒気を伴った春の低気圧がもたらした雪崩サイクルと週末の晴れが重なったことで、4月8日~9日の2日間で10名の死者を出したことが影響しています。→図1

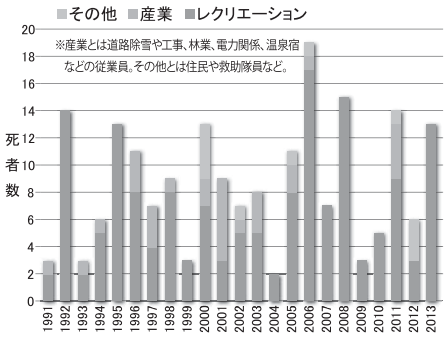


図1：雪崩死者数の推移（1991-2013）

94%が山岳での事故 登山者が死者の半数を占める

レクリエーションの雪崩死亡事故の94%が山岳で発生しており、死者の半数を登山者が占めています。これは日本の特徴であり、ヨーロッパであれば死者の8割がスキーヤー、米国であれば4割がスノーモービラーです。また、近年、滑走系の死者が増えているという明快な傾向はありません。あくまで、そのシーズン毎によって特徴が変わります。→図2

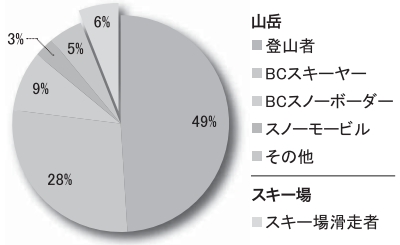


図2：レクリエーションにおける活動別の雪崩死者の割合（1991-2013）

山岳での死者の87%が男性 30代が34%を占める

山岳における雪崩死者の87%が男性、13%が女性です。死者の平均年齢は40歳ですが、年齢区分別の構成をみると30代が最も多く、全体の34%を占めます。最年少は18歳、最年長は76歳です。また、20-24歳の区分において12名が大学生です。→図3

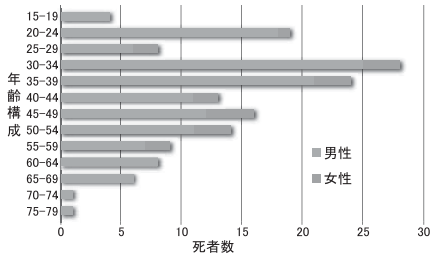


図3：山岳における雪崩死者の年齢構成（1991-2013）

山岳での雪崩死亡事故の7割強で 複数人が雪崩に巻き込まれている

山岳での雪崩死亡事故においては、一つの雪崩に同時に複数の人が巻き込まれるケースが7割強を占めます。一般的に、複数の人が雪崩に巻き込まれる事故は、雪崩地形とグループマネジメントの整合に教訓を残すことが多いものです。→図4

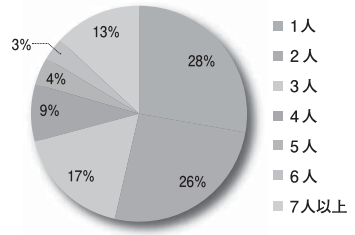


図4：山岳での雪崩死亡事故における雪崩遭遇人数の割合（1991-2013）

企画：雪崩安全を考える会　協力：公益社団法人日本山岳ガイド協会／公益社団法人日本山岳協会／日本勤労者山岳連盟
協賛：山と溪谷／岳人／PEAKS　データ提供：特定非営利活動法人日本雪崩ネットワーク

詳しくは ➡ http://www.sangakukyousai.com

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10：00 ～ 17：00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397
E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
ＵＲＬ：http://sangakukyousai.com